

# 様々なステークホルダーが絡むしがらみの中で、 いかにWin-Winを実現するか?《行政課題解決セミナー》

一仕事には様々なステークホルダーが絡み合い、お互いの利害が対立してしまうことも少なくありません。しかも、ステークホルダーが多岐に渡る場合、その対立を一つひとつ解消していても、必ずしもステークホルダーすべてに納得してもらえとも限らず、その解決にも沢山の時間と労力がかかります。

今回のワークショップでは、様々なステークホルダーが絡む場面において、すべてのステークホルダーにWin-WinをもたらすTOC流の解決方法について学んで行きながら、実際の事例を使って、この解決方法のパワフルさを実感してもらいたいと思っています。(講師メッセージより)

## 《ワークショップレポート》

今回のワークショップでは、行政課題「持続可能な購入活動を推進するには」について議論しました。このテーマは、SDGsでも12番目のゴール「つくる責任 つかう責任」として設定され、持続可能な消費と生産のパターンを確保することが求められています。生産者、流通業者、小売業者、消費者、行政など、様々なステークホルダーが存在するこの課題について、埼玉グリーン購入ネットワーク会長の星野さんから解説いただいた後、議論を進めました。

ワークショップの冒頭、岸良さんが会場に問いかけました。

みなさんだったら、どのようにワークショップを進めますか?

参加者からアイデアが飛び交う中、  
問題が何かわからなかったら、「課題を整理してみましよう」と問いかけ、問題の定義から初めてはいかがでしょうか?  
と、岸良さんからファシリテートのコツの解説。

講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。  
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC (Theory Of Constraint:制約理論) をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

まず、当事者の望ましくない現象 (Un Desirable Effect:UDE) を洗い出し、続いて、出したUDEの中で重要なUDEについてのDE (Desirable Effect:望ましい現象) を出していきます。ここで驚きだったのが、重要なUDEについてのDEによって、他のUDEが消えてしまうことでした。続いて、他のステークホルダーのUDEを出していくのですが、このUDEも、先ほど出したDEによって消えてしまうことがわかり、これも驚きました。

重要なUDEを消すと、他のUDEも消えることが多い。重要なものを選ぶ、それが1番ピン。考えた解決策で全てのステークホルダーのUDEを消す方法でないと、うまくいかない。と岸良さんの解説。その後は、重要なUDEを解消してDEを達成する解決策について参加者全員で知恵を絞り、ワークショップが終了しました。

## 《今回の学び》

様々なステークホルダーが絡む、一見複雑な状況を目の当たりにしても、繋がりあるものを分けて考えてしまうことなく、シンプルに問題を定義することから始める。「ものごとはそもそもシンプルである」というTOCを支える考え方を強く持ち、1番ピンを見つけることが、全体最適をもたらすことになることと改めて実感するワークショップでした。

## 《他の発表》

- ◆ 「デジタル庁創設の課題」  
田中理事長
- ◆ 埼玉県庁組織開発  
「good cycle project」  
伊原、堤さん (埼玉県)



## 全体最適の行政マネジメント研究会について

- ・ 全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。
  - ・ 次回のセミナーは2021年6月に実施予定。日程が決まりましたら、行マ研HPに掲載します!!
- <https://tocgyousei.org/>